

インドネシア金融政策（2022年8月）

コロナ禍以降の超緩和的な金融政策に終止符を打つ

2022年8月24日

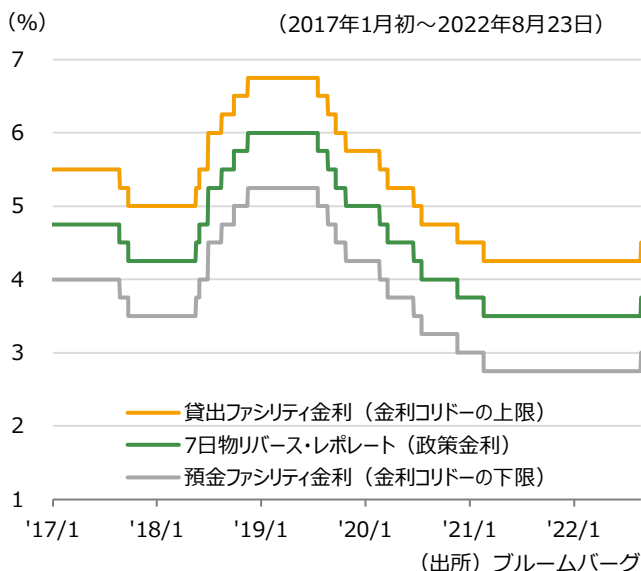
景気支援・インフレ抑制・為替安定のバランスを図り、緩やかな利上げ

8月23日（現地）、インドネシア銀行（中央銀行）は、政策金利である7日物リバースレポレートを0.25%ポイント引き上げ、3.75%にしました【図表1】。2018年末以降では初めての利上げとなり、コロナ危機下での超緩和的な金融政策に終止符を打つ格好となりました。

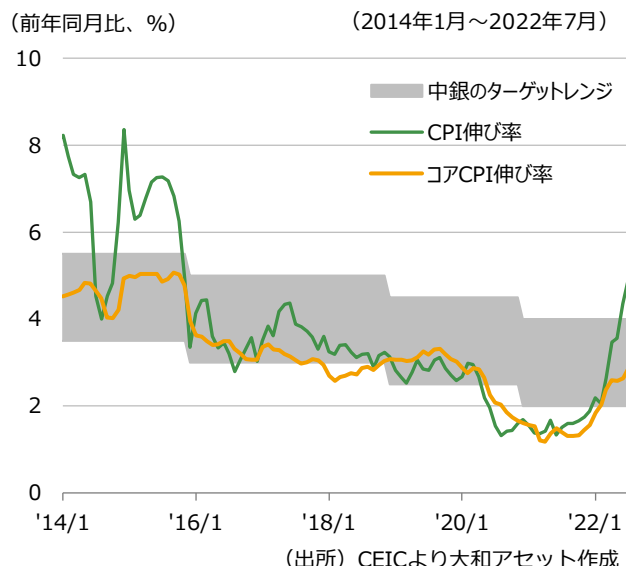
中銀は、声明文で利上げの理由について、「コアインフレとインフレ期待の上昇のリスクを軽減するとともに、為替市場の安定を図るための予防的な措置」としました。インドネシアでは、コアインフレが抑制されているため【図表2】、インフレ懸念は相対的に弱く、利上げによる物価抑制の緊急性はさほど高くありません。但し、米国をはじめ海外で利上げが進むにつれ、インドネシアのような金融正常化に出遅れている国の通貨に減価圧力が加わる可能性があります。グローバル金融市場の変動性が高い中で、今回の利上げは為替市場をはじめ、金融市場の安定化に寄与すると考えられます。利上げと同時に発表された中銀による国債引き受けの継続も、国債市場に安心感をもたらしています。

また、景気見通しにおいても今回の利上げの影響は限定的とみられます。声明文で中銀は、2022年の実質GDP成長率について、+4.5~5.3%の予想レンジの上限程度とみており、景気見通しは良好としています。強い家計消費等を背景に景気加速が続くと見込まれる中、今後中銀は、引き続き景気支援・インフレ抑制・為替安定のバランスを図りながら、緩やかな利上げを継続すると想定します。

図表1 主要政策金利



図表2 CPI（消費者物価指数）およびコアCPI



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management